

内科

腸内細菌と冠動脈疾患について

狭心症などの冠動脈疾患の患者さんの血中で高い濃度を示すトリメチルアミノオキサイド（以下、TMAO）は、卵などに含まれるカルニチンの代謝産物ですが、動脈硬化のあるマウスに抗生剤を投与して腸内細菌をなくすと、TMAOの増加による動脈硬化の悪化が抑えられる結果が見られました。これは腸内細菌のコント

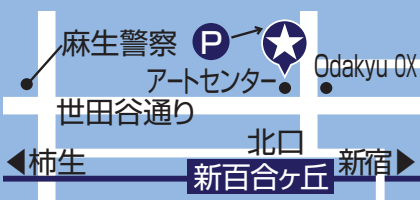
ロールによって、動脈硬化性の疾患の予防や治療の可能性があることを示唆しています。近年の遺伝子工学の手法により、冠動脈疾患患者である種のバクテロイデス菌の割合が明らかに低いことが判明し、動脈硬化マウスにこれらの菌を与えたところ、動脈硬化が抑制されたとの研究があります。動脈硬化を予防できる腸内細菌製剤の開発が期待されています。なお、循環器疾患でワルファリンを服用している人が抗生剤を飲むと、腸内細菌の変化で薬が効き過ぎてしまうことがあるので注意が必要です。



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>